

褒章受章者の横顔



黄綬褒章（弁理士業務功労）

あさ か かず き
浅 賀 一 樹

学歴・職歴 昭和 45 年中央大学法学部法律学科卒業，（現在）アサカ特許事務所（所長）

弁理士会歴 昭和 49 年弁理士登録（第 7870 号），昭和 57～58 年常議員，平成 16 年副会長，同 17 年執行補佐役，同 6 年綱紀委員会委員長

賞 平成 7 年弁理士会特別功労表彰，同 17 年日本弁理士会特別功労表彰，同 17 年日本弁理士会永年功労表彰

受章に浴して この度，日本弁理士会のご推薦を賜り，黄綬褒章を受章させて頂きました。これも日本弁理士会のお力のみならず，会員の皆様のご支援のお陰と深く感謝する次第です。

この受章を励みとして，今後も「クライアントのために丁寧な仕事を提供すること」をモットーとして，更に研鑽を重ねながら弁理士業務を続けて行く所存であります。

また，微力ながら，さらなる日本弁理士会の発展と弁理士の地位向上のために協力できればと思っておりますので，今後も会員諸兄のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



黄綬褒章（弁理士業務功労）

いし だ よし き
石 田 喜 樹

学歴・職歴 昭和 49 年名古屋大学法学部法律学科卒業，（現在）石田国際特許事務所（所長）

弁理士会歴 昭和 49 年弁理士登録（第 7872 号），平成 3～5 年常議員，同 15 年副会長，同 16 年執行補佐役，同 6 年東海委員会委員長，同 13 年業務対策委員会委員長，同 9 年弁理士会東海支部幹事

賞 平成 5・9 年弁理士会特別功労表彰，同 16 年日本弁理士会特別功労表彰，同 17 年日本弁理士会永年功労表彰，同年日本弁理士会感謝状

受章に浴して 受章に際し，改めて，ご尽力いただきました関係各位に御礼申し上げます。

昭和 48 年秋に父・石田一（ハジメ）が黄綬褒章を受章致しました。当時私は弁理士試験の受験生で，偶々口述試験と受章の日程とが重なっており，私が論文試験に合格していれば揃って上京することができると密かに期待していました。しかし結果は見事に落っこちてしまい，独り寂しく両親を見送ったことが思い出されます。幸いにして翌 49 年に合格し，31 年目に当る今年，同じ黄綬褒章を受章できたわけではありますが，やっと父と肩を並べることができたこととホッとする反面，いやまだまだ父の域には達していない，もっと精進しなくてはと自分に激を飛ばしているところです。ただ父と決定的に違うのは，父は生涯事務員を一人も使わず母と共に事務所を切り盛りしてきたのに対し，私は何人かの弁理士，事務員の大きな助けを借りてやってきたということです。受章した日の夜に家内がボソッと言いました。「お父さんは本当に偉かったね」と。私は思わず「ウ、ウン」としか答えられませんでした。

私もようやくスタートラインに立てた気持ちです。これからも頑張りますので宜しくお願いします。



黄綬褒章（弁理士業務功労）

いがらし かず とし
五十嵐 和 壽

- 学歴・職歴** 昭和 46 年日本大学法学部法律学科卒業，（現在）スワン国際特許事務所（所長）
- 弁理士会歴** 昭和 50 年弁理士登録（第 8011 号），昭和 61～62 年常議員，平成 15 年副会長，同 16 年執行補佐役，同 3 年令規委員会委員長，同 10 年業務対策委員会委員長，同 17 年例規委員会委員長
- 賞** 平成 3・10 年弁理士会特別功労表彰，同 16 年日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して この度の褒章の受章に際し，多くの皆様方からご丁寧なるご祝詞をいただき，誠に有難く，厚く御礼申し上げます。

弁理士試験に合格した昭和 50 年当時は，知的財産という言葉そのものも未だ一般的ではなかったように思いますが，今は，様変わりとなり，知的財産が立国の重要な礎として位置づけられています。このような世の中に身を置くことができた幸運に感謝するとともに，知的財産に専門家として関与できる職業を選択できたことに対して本当によかったなあというのが実感です。また，若輩の身でありながら，このような栄えある章をいただいたのは，陰に陽に何かと引き立ててくれた前所長の佐田守雄弁理士をはじめ多くの先輩，友人等によるご指導ご支援の賜であると感謝しています。今後も，微力ながら業界の発展のために努力する所存ですので，どうか変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



黄綬褒章（弁理士業務功労）

わた なべ もち とし
渡 邊 望 稔

- 学歴・職歴** 昭和 45 年東京大学工学部化学工学科卒業，（現在）いおん特許事務所
- 弁理士会歴** 昭和 50 年弁理士登録（第 8015 号），昭和 62～63 年常議員，平成 9 年副会長，同 4 年生物特許委員会委員長，同 8 年次年度予算検討委員会委員長
- 公職** 平成 10～18 年民事調停委員（東京地裁）
- 賞** 平成 3・10 年弁理士会特別功労表彰，同 11 年弁理士制度 100 周年記念式典表彰，同 14 年日本弁理士会永年功労表彰

受章に浴して このたび，黄綬褒章の栄えある受章に浴して，ご尽力頂いた関係者の皆様方に深く感謝致します。家族等周囲の方も大変喜んでくれて面目を施しました。

福岡の片田舎から，東京に出て参りまして，弁理士にたどりつきました。当時はマイナーであった知的財産権も次第にメジャーになっていく中で，精を出してきました。

そのお陰でしょうか，このたび黄綬褒章を頂戴し，快晴の良き日に，黄綬褒章の伝達の後，皇居へ参内し，豊明殿にて，天皇陛下にお言葉を頂き，拝謁の榮に浴しました。

お言葉の後，受章者を一巡なさいましたが，お礼をしてふと顔を上げると，私のほんの 1 メートル程の処に，天皇陛下がお立ちになっていらして，天皇陛下の目と私の目とが合ったのでございます。失礼ながら，目を合わせておきますと，天皇陛下の三日月形の慈愛に満ちた，深い落ち着きのある静けさの中に吸い込まれていくような感覚を覚え，身体と心とその雰囲気の中にとけていき，一体感をさえ覚えました。このような体験は生まれて初めてのことでありました。

このような不可思議とも言える体験をさせて頂いたことは，本当に有難く，これから生きていくための宝，としたいと思っています。



黄綬褒章（弁理士業務功労）

よし だ よし はる
吉 田 芳 春

学歴・職歴 昭和 45 年日本大学法学部法律学科卒業，（現在）吉田国際特許事務所（所長）

弁理士会歴 昭和 51 年弁理士登録（第 8127 号），昭和 63 ～平成元年常議員，平成 16 年副会長，同 17 年執行補佐役，同 3 年特許制度昂揚普及委員会委員長，同 17 年水際対応委員会委員長

賞 平成 3・8 年弁理士会特別功労表彰，同 17 年日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して 11 月 16 日午後 2 時過ぎに坂下門からバスで皇居に入り，下車して整列後に豊明殿に参内しました。豊明殿では，前列に褒章受章者が後列に同伴者が間をおいて並びました。しばらくしてお出ましになった天皇陛下が前列中央台にお立ちになりました。まず，代表者がお礼を言上し，次に陛下からねぎらいと激励のお言葉を賜りました。その後，陛下は，前列から右周りで受章者に会釈をなさりながらゆっくりと歩を進められました。そのとき 3 ～ 4 m 先に陛下のお姿を拝見することができました。その後，陛下は前列が回れ右をした後列との間に歩を進められ，両列から陛下を拝見することができました。拝謁後にバスで皇居内を横断したときは車窓から皇居内を垣間見ることができ，短い間であったが一生に一度のことと感慨無量でした。

家庭よりも職場の方が長い弁理士稼業の私にとっては，いつでも家庭を守ってくれる妻に恩返しをした気分であり，男としての誇りを感じた一日でもあった。推薦して頂いた日本弁理士会，上手にまとめてくれた事務局の皆様，活動の場を与えてくれた弁理士同友会の皆様，支えてくれたわが事務所の皆様に感謝と御礼を申し上げたい。有難うございます！



黄綬褒章（弁理士業務功労）

み さわ まさ よし
三 澤 正 義

学歴・職歴 昭和 45 年国士舘大学法学部法律学科卒業，昭和 37 年～ 39 年株式会社東芝勤務，平成 14 年～現在国士舘大学大学院非常勤講師，（現在）三澤特許事務所（所長）

弁理士会歴 昭和 51 年弁理士登録（第 8141 号），平成 14 年常議員議長，昭和 59 ～ 61・13 ～ 14 年常議員，平成 4 年副会長，昭和 61 年会誌委員会委員長

公職 平成 9 ～ 10 年特許庁弁理士審査会臨時委員

賞 平成 16 年産業財産権制度功労者（経済産業大臣から表彰される），同元年弁理士制度 90 周年記念式典特別功労表彰，同 5 年弁理士会特別功労表彰，同 11 年弁理士会感謝状，同 11 年弁理士制度 100 周年記念式典表彰，同 13・16 年日本弁理士会特別功労表彰，同 17 年日本弁理士会永年功労表彰

受章に浴して 昭和 37 年に松本工業高校を出て東京芝浦電気株式会社（現東芝）に入りました。その後思い立って東芝を辞めて国士舘大学に通い始めました。大学 4 年のときに故瀧野文三先生の工業所有権の講義を受講したのが契機となって弁理士になりました。弁理士生活 30 年近くを過ぎてまいりましたが，その間業界のみならず業務を通じての社会における諸先輩，同僚に公私共にお世話になりました。そのお陰をもちましてこの度栄えある黄綬褒章を受章することができました。深く，厚く感謝申し上げる次第です。また，これを機に業界のために，社会のために益々一層貢献させて頂く所存ですので，今後共よろしくご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。ありがとうございました。



黄綬褒章（弁理士業務功労）

こう の まこと
河 野 誠

学歴・職歴	昭和 47 年中央大学法学部法律学科卒業，（現在）河野特許事務所（所長）
弁理士会歴	昭和 51 年弁理士登録（第 8167 号），昭和 62～63 年常議員，平成 10 年副会長，同 13～14 年知的財産支援センター副センター長，同 16～17 年執行補佐役，同元年長期ビジョン委員会委員長，同 8 年弁理士制度問題懇談会委員長
賞	平成 3・11 年弁理士会特別功労表彰，同 11 年弁理士制度 100 周年記念式典表彰，同 15 年日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して 「青年」の気持でございましたが，弁理士登録早 30 年目，還暦を迎えた年に黄綬褒章を受章させて頂き，大変光栄です。

些かの社会貢献の実績も感じられない私のような者が頂くべきなのか否かと迷ってございましたが，先輩の方々の強いお勧めもあり恐る恐る頂戴しました。

家族，事務所員，弁理士の諸先輩や仲間の皆さん，事務局の皆さんは素より，東京から通いながら島根県下の知財活動に深く関わらせて頂いた私にとりましては，県，商工会議所，発明協会県支部，市町村，地元企業等の関係者の方々にも永年にわたって大変大事にして頂き，感謝の気持で一杯です。特に「弁理士過疎地」と云われた島根県での業務は，私にとりまして他に掛け替えのない数々の貴重な体験を積ませて頂きました。

受章させて頂いたこの機を節目として，今後は微力ながら知財を通じた社会貢献，とりわけ「地方発知財立国」実現のために私なりの力を注ぐことにより，少しでも皆様にご恩返しができればと思っております。



黄綬褒章（弁理士業務功労）

お ぐら まさ あき
小 倉 正 明

学歴・職歴	昭和 45 年日本大学法学部法律学科法職課程卒業，（現在）小倉特許事務所（所長）
弁理士会歴	昭和 51 年弁理士登録（第 8169 号），平成元年～2 年常議員，同 13 年副会長，同 8～9 年研修所副所長，同 16～17 年中央知的財産研究所副所長，同 4 年特許制度昂揚普及委員会委員長
賞	平成 6 年弁理士会特別功労表彰，同 14 年日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して このたびの受章は，顧客の方々を含む各方面の多くの先輩諸兄，友人及び後輩諸氏のご指導ご支援の賜であり心から深く感謝しております。ありがとうございました。又，事務所スタッフ，家族のお陰と痛感しております。友人に勧められ，72 年よりこの業界に携わってから今日まで，顧客ともすばらしい関係を維持して頂くことができました。そして，その間，76 年 3 月結婚，翌 77 年事務所設立。放し飼いにしてくれた配偶者のお陰で，業務に，そして，事務局の皆さんの力を借りて，本会関係の作業にも，小生なりに突っ走ることができました。褒章を戴いても，今のところ，生き方に変化の兆しはなく，これからも，自己変革と，弁理士業務を含む未来の知的財産制度の構築にお役に立てるよう，業務を通じて，微力を尽くせればと思っております。

今後とも変わらぬご指導を頂けますようお願い申し上げます。



黄綬褒章（弁理士業務功労）

こ やま てる あき
小 山 輝 晃

学歴・職歴	昭和 42 年東京工業大学理工学部制御工学科卒業，（現在）小山市特許事務所（所長）
弁理士会歴	昭和 51 年弁理士登録（第 8178 号），昭和 59 ～ 60 年常議員，平成 12 年副会長，昭和 62 年意匠委員会委員長，平成 10 年弁理士会との特技懇との懇談会委員長
公職	平成 15・16 年工業所有権審議会臨時委員
賞	平成元年弁理士制度 90 周年記念式典特別功労表彰，同 13 年日本弁理士会特別功労表彰，同 16 年日本弁理士会永年功労表彰，同 17 年日本弁理士会感謝状

受章に浴して この度の黄綬褒章の受章は皆様のご支援とご指導の結果によるものとして感謝しております。

大学の理工学部を卒業してエンジニアとして一生働くつもりで，ある大手の食品会社に就職しました。そして入社一年目において，技術系で同期入社の仲間が特許法等の法律の勉強をしているのを見て仕事に役に立たない無駄な勉強をしていると思っていました。

ところが，入社して数年後，社会で通用するスキルを得るための仕事上の環境に不満をいただくようになり，悶々としているときに人生の先輩より弁理士の道に進んだらどうかとすすめられ，半信半疑で特許事務所へ転職すると共に弁理士の受験勉強を開始することになりました。そして数年後に弁理士試験に合格し更にその数年後に独立して現在に至っていますが，今回の受章が弁理士業務の精励とのこと，全く人生の不可思議を感じています。

この度の受章により人生の一区切りができたようです。今後新たな気持で頑張りたいと思います。